

有毒ですが、漢方では高齢者の救世主

ハナトリカブト(有毒) (キンポウゲ科)

Aconitum carmichaeli Debeaux

部位	塊根
生薬名	加工ブシ 局方収載
成分	アコニチン (ジテルペンアルカロイド、有毒成分)
薬理	鎮痛作用、強心作用、利尿作用、代謝促進
薬能	補陽薬
漢方	八味地黄丸、真武湯、麻黄附子細辛湯、大防風湯など



中国原産の多年草。比較的湿度のある、冷涼な場所に自生し、名前の通り他のトリカブト類より花を多く咲かせます。美しい花のため園芸植物として多くの品種が存在しますが、植物界でもトップクラスの有毒植物であることを忘れないようにして下さい。猛毒の塊根を減毒化〔生薬を加工処理することを修治(しゅうじ)と言います〕したものを生薬のブシ(附子)と呼び、高齢者によく使用される漢方薬の八味地黄丸や真武湯などに配合されています。成分も猛毒のアコニチンからベンゾイルアコニンと呼ばれる成分などに変化しています。身体を温め、新陳代謝を促進して、痛みなども止めてくれます。ブシ(附子)という名前は、写真のように中心にある母根のまわりに子根が附く様子に由来しています。残念ながら、今回の写真は、母根が子根に隠れており見ることができません。植物園に足を運んでいただき、観察してみてください。

ニホンスイセン(有毒) (ヒガンバナ科)

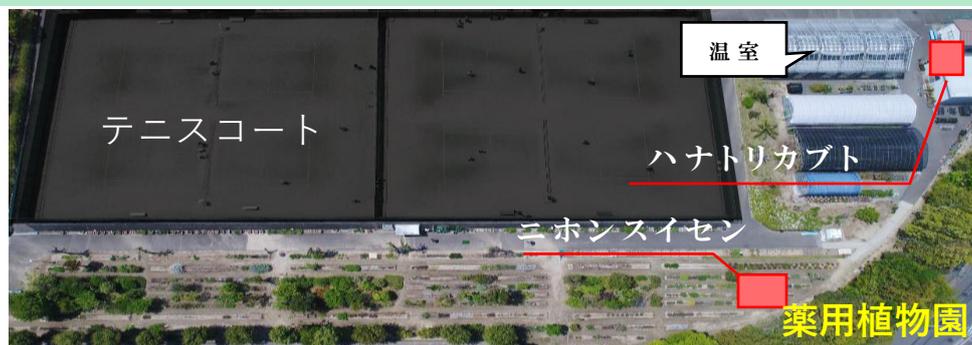
食中毒に要注意! 匂いも確認!

Narcissus tazetta L. var. *chinensis* M. Roem.

部位	鱗茎
生薬名	水仙根(スイセンコン)
成分	リコリン(アルカロイド、有毒成分)
薬理	催吐作用、抗ウイルス作用、抗腫瘍作用
用途	民間的に鱗茎をすり潰して外用(現在では使用しない)



和名に「ニホン」と付きますが、地中海沿岸が原産地と考えられている多年草。中国から伝わり、日本で野性化しています。5~7枚の白い花弁と黄色の副花冠が特徴です。この種を一般にスイセン(狭義)と呼びますが、広義では様々な品種の総称として「スイセン」が使われていますので、今回はニホンスイセンという和名を用いました。濃い緑色の細長い葉をニラやノビルと間違えて料理する事件がよくあります。さらに鱗茎(球根)を小さなタマネギと間違える事件が報告されています。これらの食中毒事件は、採集した人と料理した人が別人であることが多いようです。台所があれば、疑いもなく料理してしまっても仕方ないと思います。スイセンにはニラやタマネギのように強く独特な香りはないので、採集する時は見た目だけでなく匂いを確認することも大切です。摂取後、嘔吐や下痢などの症状が出ます。ご注意ください。



ホームページでも
ご覧いただけます